2004 ITU Triathlon World Cup, Gamagori

2004 ITU トライアスロン ワールドカップ 蒲郡大会

2004 NTT Triathlon Japan Cup, 5th Stage

ＮＴＴトライアスロンジャパンカップ第５戦

26th September 2004

＜女子＞

来年の世界選手権に向け、会場を蒲郡競艇場周辺コースからラグーナ蒲郡を中心としたコースに変更しての開催となった。気温 26.4℃、湿度 95.9%、日差しはないものの非常に蒸し暑い中、午前 11 時に、21 名の選手がポンツーンからスタート。ニコル・ハケット(オーストラリア)、アナベル・ラックスフオード(オーストラリア)、ローラ・レバック(アメリカ)、アーニャ・ディトマー(ドイツ)の 4 人がトップ集団で、続いてピップ・テイラー(オーストラリア)、マキシン・シーア(オーストラリア)、リズ・ブラッチフォード(イギリス)が、1 分後に下村真紀(ＮＳＩ)、忽那静香(日東紅茶)、大松沙央里（アラコ)、上田藍（グリーンタワー・稲毛ＩＴＣ）らを含む 9 人の集団でスイムをフィニッシュし、タフでテクニカルなバイクコースへ飛び出していった。

バイクでトップの 3 人の集団をローラ・レバックとマキシン・シーアが 2 分遅れで追いかけ、さらに 30 秒遅れて上田、下村、関根明子(ＮＴＴ東日本・ＮＴＴ西日本)、高木美里(湘南ベルマーレ)、ミッシェル・ディロン(イギリス)らを含む 9 人の集団が形成されたが、４周回目で第 2 集団が第 3 集団に吸収された。

ランはトップの 3 人を 3 分遅れで 9 人の集団が追いかけ、続けて大松がスタート。ランですぐにトップに立ったアナベル・ラックスフォードがは快調にスピードをあげそのまま優勝。熾烈な 2 位争いを制したのはアーニャ・ディトマー、３位はニコル・ハケット。日本人 1 位は、マキシン・シーア、上田と 5 位争いをした関根が 6 位。

＜男子＞

13 時 47 分、33 名の選手スタートした。ステファン・ジャスタス(ドイツ)を先頭に、アンドレアス・ラエラート(ドイツ)、カートニー・アトキンソン(オーストラリア)らが次々とスイム・アップ。スイムのスペシャリスト平野司(関西大学)は 6 番手でスイムを終了した。

バイクに入って、ひとりで逃げた山本良介(神奈川県トライアスロン連合)を追うドミトリー・ガーグ(カザフスタン)、西内洋行(チームテイケイ)、山本淳一(K'Ｓ－Y)、福井英郎(神奈川県トライアスロン連合)らを含む 21 人の集団が形成された。４周目で集団から脱出して山本良介を吸収したクリス・ゲメル(ニュージーランド)とアンドレス・ラエラートがじりじりと後続の集団を引き離すが、高低差 92m の登り手前で山本良介が無念のリタイア。さらに 5 周目でマット・リード(アメリカ)、スチュアート・ヘイズ(イギリス)が集団から抜け出し、トップと 1 分差、後続の 20 人の集団とは 50 秒差をつけた。

ランに入ってクリス・ゲメルとアンドレアス・ラエラートがトップにたち、30 秒差でスチュアート・ヘイスが、1 分差でマット・リードが追う。後ろからドミトリー・ガーグとブライス・カーク(オーストラリア)、セバスチャン・デーマー(ドイツ)が前を猛追し、3 周目終了時で首位争いはクリス・ゲメル、アンドレアス・ラエラート、スチュアート・ヘイス、ドミトリー・ガーグが一線に並んだ。熾烈な争いを制して、クリス・ゲメルがワールドカップ初優勝。2 位にドミトリー・ガーグ、3 位にスチュアート・ヘイズ。日本人 1 位は、ランで順位を 11 上げた高濱邦晃(日本食研)が 10 位。